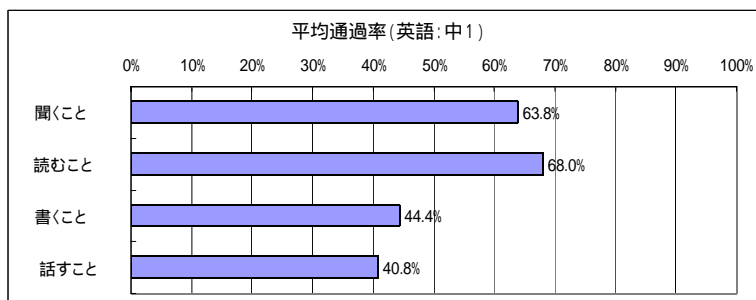


(5) 英語

ア 内容・領域別

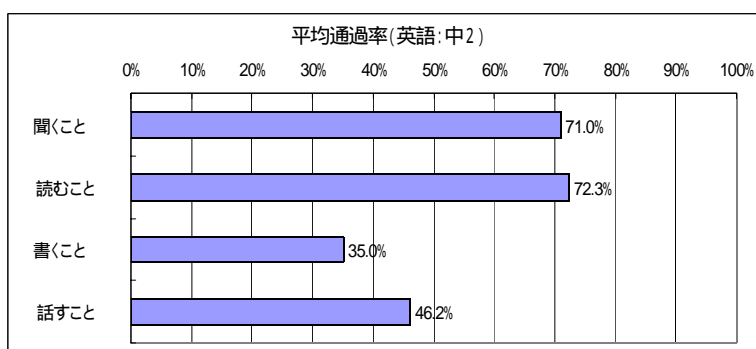
(ア) 中学校第1学年

内容・領域	平均通過率
聞くこと	63.8%
読むこと	68.0%
書くこと	44.4%
話すこと	40.8%



(イ) 中学校第2学年

内容・領域	平均通過率
聞くこと	71.0%
読むこと	72.3%
書くこと	35.0%
話すこと	46.2%

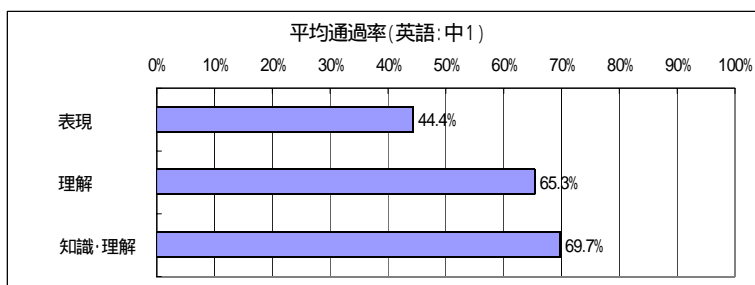


第1学年、第2学年とも「聞くこと」「読むこと」については、他の領域に比べて高い平均通過率である。聞いたり、読んだりする中で、英文の概要を把握することはできるという結果を表している。「書くこと」については、どの学年も低い通過率であるが、今回の問題では、英文を正確にどれくらい書けるかを(符号、記号や単語等、英文として1つでも誤りのある場合は不正解)調査した結果であろう。英文を書くことに慣れさせるとともに、正しい文章かどうかを生徒同士で相互評価する活動を学習過程に位置付ける必要がある。

## イ 観点別

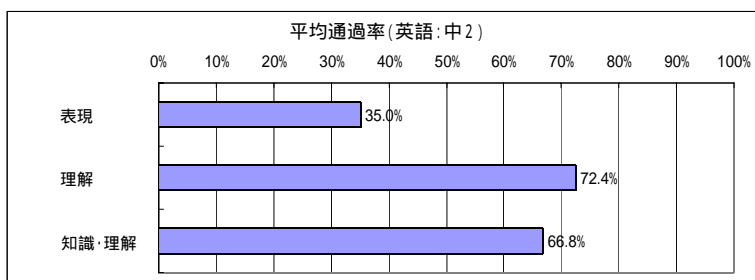
### (ア) 中学校第1学年

観 点	平均通過率
表現	44.4%
理解	65.3%
言語や文化に関する知識・理解	69.7%



### (イ) 中学校第2学年

観 点	平均通過率
表現	35.0%
理解	72.4%
言語や文化に関する知識・理解	66.8%



どの学年も知識や理解については、概ね高い通過率である。しかし、身に付いた知識を実際の生活場面で使う機会が少ないため、表現の平均通過率は低い結果である。

また、ALT等の導入により、生徒が授業で英語を使う活動は増えているものの、その活動のねらいは、正確な英文を使うことよりコミュニケーションが継続することをより重視していることから、今回のような完全な英文を要求した問いに対しては、平均通過率が低い傾向になったものと考えられる。

表現活動は、「話すこと」と「書くこと」に大別されるが、お互いの領域が相互に関連しているので、バランスよく両領域を取り入れていくことが大切である。今後、パターンプラクティスなど正しい文章を反復練習する活動や、より正しい文章を使ってコミュニケーションの継続性を図れるような活動を随時授業に取り入れていく必要がある。